

BCAO 関西支部 平成 29 年 8 月度 (第 123 回) 勉強会議事録

日時： 8 月 23 日 (水) 19:00~20:30

場所： 大阪産業創造館 5F 研修室 D

出席者： 大館、飯田、鷲山、萩原、田中、浦川、岡田、徳山、中村 (和) 林 (吉)、別役、
松尾、松下、三橋 本部：高橋副理事長、静岡：石井
司会：藤村、書記：野原 (合計 18 名)

1. 自然災害リスク「御殿場市の富士山噴火 BCP について」

講師：静岡地域勉強会 IST 経営コンサルティング 石井 洋之 様

2. 概要：平成 27 年 5 月に箱根町大涌谷周辺の連続小地震と蒸気の異常噴出によって、噴火警戒レベルが 1 から 2 (火口周辺規制) に引き上げられるのを契機に、観光産業などに大打撃を与えたことは、ご記憶に新しい。
箱根町に 10 km ほどしか離れていない御殿場市の商工会では、これを契機に、富士山噴火リスクにも備えた BCP 策定の気運を高めるべく、BCP セミナーと個別企業の BCP 策定企業支援事業を開始した。その際、講師が経験した BCP 策定企業支援「同時被災しない地域への代替地探し」等についてご講演頂く。

3. 質疑応答、意見交換

- ・静岡の BCP 策定を行った 6 社は県の助成は入ったのか？
→助成はコンサル費用の 2/3 であり、企業負担は 1 回 1 万円、10 回で計 10 万円の費用で実施。(中小企業への専門家派遣制度による BCP コンサル費用は 1 回 3 万円と決められている)
セミナーは集客できたが、実際のコンサル業務にはつながらなかった。また、大企業は、こちらからお断りした。依頼を受けた企業の規模は、30~50 名規模の中小企業。
- ・静岡県信用保証協会で行っている災害時発動型予約保証と同じ取り組みを行っているのは兵庫県だけか。
→私の知る限りでは、兵庫県のみで、商品名は「そなえ」となっている。金融機関としては、自分にとっての BCP である。
- ・大手企業は、BCP を策定していなくてもつぶれつことはないが、中小企業は、人と金が重要。
- ・静岡県版 BCP は、地震対策を想定したものである。私は今回の勉強会のために火山対策についてにわか勉強して発表した。WEB には専門的な火山噴火 BCP が載っているのでそちらを参考にしてほしい。もともと、なぜ静岡県がこのような取り組みを始めたかという、静岡県版の BCP を策定した際に、その普及の手段としてこのような、金融商品を出し、県の施策として組み込まれた。
- ・弊社では、地震災害が主たる想定で火山対策ができておらず参考になった。
- ・BCP は企業を倒産させないため。長い間、企業が存続できるためのものである。
- ・阪神淡路大震災の際に、なぜ灘の酒蔵があれだけの被害を受けて倒産しなかったか？災害が起こった時はみんなで助け合う文化があった。50 数社あったにもかかわらず倒産したのは 2~3 社。お家騒動による分社や資金繰りの悪化等、さまざまな危機があったが、その危機を乗り越えてきた。まさに BCP は生き残りのための経営そのものである。
- ・BCP は、ISO9000 と同様にやっておけばよいという経営者が多い。BCP は経営であるといったとたん、驚く経営者が多い。どうやったら経営者が BCP は経営であることを理解してもらえるのか。
→ある日突然、経営者が事故にあったら会社がどうなるのか、考えたことがあるか等、具体的な事例を示し、いまから備えることを提案していけばよい。
- ・大阪は企業風土が違い自分 (経営者) は事故にあうことはないというところが多い。
- ・中小企業は、運転資金についてあまり考えられていない。
- ・激甚災害指定されると、グループ補助金が支給されるためかかる費用の 75%が、国及び県から支給される。

以上